



成隣だより

平成29年12月 1日
第 8 号
昭島市立成隣小学校
校長 加賀田 真理

楽しむ心 楽しませる心

校長 加賀田 真理

先日の学習発表会には、大勢の方々にご来校いただき、ありがとうございました。

学校では、子供たちの「心に残る」「力が伸びる」学習発表会を目指して、取り組みを進めてまいりました。子供たちは「なりきる」「思いを込める」「伝わるように表現する」「協力」「称賛」などを意識しながら、演技に裏方の仕事に、一生懸命取り組みました。どの学年もそれぞれのよさを生かした個性的な発表で、学校全体で一体感を味わいながら楽しむことができました。大勢の皆様からいただいた温かい視線や励ましの言葉、大きな拍手に、子供たちも励まされ、満足感を得ることができた様子でした。参観いただいた方々に、心より感謝申し上げます。また、家庭でのご準備や練習にご協力をいただいた保護者の皆様方にも、感謝申し上げます。ありがとうございました。

演者として、動物やお坊さん、魔女、ロボットなど、自分とは別人格のキャラクターとなり、普段は口にする事が出来ない、時には怒られてしまうような台詞を、思い切り大きな声で演ずることは、今の自分ではない違う人生を生きる機会となるのかもしれない。その瞬間、心が解放され、自分の意外な一面と出会うことにつながる可能性もあります。また、自分の声や表情の演技による働きかけで、みんなを笑わせ、泣かせ、ときどきさせることができたという経験は、自分の行動や働きかけが、人の心を動かすことができるという自信にもつながると思います。生き生きした表情や動き、対立と和解、そして共生する生き方、心に残る友達の願いなど、今回の学習発表会を通して劇中人物として生きることので得られた様々な経験を、実生活の中でも生かしてほしいと思います。

また、他の子供たちの表現活動を鑑賞するという行為は、けして受け身となる消極的な行為ではなく、笑う、泣く、拍手を送るなどの行為を通して、演者と一緒に共通の空間を創り上げる、言わば「共同創作者」となる能動的な行為なのだと考えています。

しかし、そのような行為は「みんなと一緒にひとつのことに取り組もう」とする意識がなければできないことです。今回の学習発表会では、児童鑑賞日に他の学年の発表について、楽しそうに感想を話し合っている子供たちの様子から、学習発表会を「楽しんでいる」＝「積極的に参加して一体感を味わっている」ことがうかがえて、とてもうれしく思いました。同じ場所で、同じ経験をすることが、集団としての一体感や集団への帰属意識を育むことは、今も昔も変わらないのでしょう。そういう意味では、今回の学習発表会は一体感を体験する、ひとつのよい機会となったと思います。

“その場に参加し、自分が働きかけ、努力することで、友達や自分を幸せにすることができる”

苦しい時、つらい時にもだれかのせいにしないで、学習発表会で培った自信を思い出すことで、人とつながる力が魔法や超能力ではなく、自分の力として実生活の中でも発揮されることを願っています。